

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度中野市総合戦略会議
日 時	平成 29 年 7 月 6 日 (木) 18 : 30 ~ 19 : 55
会 場	市民会館 42 号会議室
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・出席者 : 前澤憲雄 (会長)、高橋一隆、小野建一、山浦直人、宮川浩、関貴彦、三枝康雄、後藤治志、鈴木弘一、相子靖子、小林真人 (アドバイザー)・欠席者 : 渡辺信也、戸島裕司、山口美緒、上野見、松野奈月・市出席者 : 竹内総務部長、柴本政策情報課長、有賀課長補佐、丸山副主幹
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会 (進行 : 竹内部長)2 あいさつ (前澤会長)3 会議事項 (柴本政策情報課長)<ul style="list-style-type: none">・平成 28 年度における中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の評価検証について4 その他5 閉会
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

平成 29 年度中野市総合戦略会議

平成 29 年 7 月 6 日 (木)

18 : 30 ~ 19 : 55

市民会館 42 号会議室

1 開会

2 あいさつ

(会長)

お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

昨年 11 月 8 日に新潟方面へ視察に行った。この事業の重要な参考となり、大変勉強になった。

今回は中野市版まち・ひと・しごと創生総合戦略の、2 年目にあたる 28 年度末の進捗状況について、事務局から説明いただき、しっかり検証いただきたい。

先月発表があった昨年の国内の出生数であるが、97 万 6,979 人で、初めて 100 万人を割り込んだという報道があった。県内の出生数についても過去最少の 1 万 5,169 人、中野市も 300 人を割り込むという状況で、予想どおり減少は続いている。こういった状況に一喜一憂するものではないが、4 つの基本目標に沿って事業が粛々と行われているので、その達成に向けてしっかりと検証をしていただきたい。

本年度は 3 年目の折り返し地点になるが、最終年度に向けて各委員の忌憚のない意見を頂戴したい。

以上申し上げてあいさつとしたい。

3 会議事項

・政策情報課長から資料に基づき説明

・委員からの質問及び意見

○評価の仕方について

(アドバイザー)

進捗率で評価するのか達成率で評価するのか、例えば基本目標の「合計特殊出生率」と「婚姻届出件数」があつて、合計特殊出生率の基準数値が 1.65 で目標が 1.60 で、ところが実績を見るとそれを下回っている。それを達成率だけで評価して「順調」と判断している。婚姻届出件数に関しては、基準数値 561 で目標値 590 だが、実績値は 553 で基準数値を下回っている。これは達成率だけということで、実績値と目標値の割合で出すとそれぞれ 90% 台ということで「順調」という表現になるんだろうと思うが、一般の方々から見ると、目標の数字を下回っていて、果たしてそれは順調なのか。婚姻届出件数だと、判断の仕方を見ると、毎年ゼロから計上を開始する指標は進捗率による評価がふさわしくないと

いう判断で達成率を採用されていると思うが、561 あった婚姻届出件数を 590 に上げていくという目標で、下がってしまっていて順調だというのが違和感がある。

(政策情報課長)

ご指摘のとおりだが、昨年も同様の評価の仕方をした。考え方とすれば、達成率、進捗率どちらをとるかということだが、わかりにくいと言えば確かにそのとおりだが、この基準に基づいて統一してやらせてもらっているのご理解いただければと思う。

(会長)

順調だからと何もしないわけではなく中身を検討する必要があるということなので、委員の皆さんも順調だからと何も見ないということではなく、中身を見ていただきたい。

○基本目標毎の進捗状況について

(委員)

基本目標 1、2、3、4 があって、比較的順調が多い基本目標項目と、努力を要する、まだ順調ではない項目がかたまっている、特に基本目標 3 がうまくいってない気がする。その辺の分析をしているのか。

(政策情報課長)

基本目標 3 の KPI が全体的に低いというのはご指摘のとおりだが、KPI の設定の時点で、市が直にできるものとできないものがある。基本目標 1 だと、例えば学校支援ボランティア数とか ALT の数とか、市が何かすればできるものを設定しているものは意外といいが、基本目標 3 の場合は、人に動いていただく部分が多々あるので、なかなか数字が上がってこないという現状はあるということは承知している。KPI の設定時点でそういう課題はあったが、雇用の創出というところなので、市が雇うわけではないので、最終目標に向かっていくにはどうしても数字が厳しめに出してしまう。

(委員)

自分のところでできることとできないことでは差が出るのはしょうがないことだと思うが、逆に言うと、ここから折り返し地点だと巻き返しを図らなければいけないということで、そうなる個別の話に入っていくが、今後の取組として書かれていることが、これでいいのかどうか判断できない。これで本当に巻き返しができるのか判断しづらいところはあるが、市の方としては、例えば基本目標 3 のところであれば、6 次産業化事業計画認定件数、遊休荒廃農地の面積にしても、こういうやり方をしていけば達成できるという思いで今後の取組の方針をたてているという認識でいいのか。

(政策情報課長)

全体的に今後の取組のところ今年度の取組を入れてある項目が多いが、例えばいつまでにするみたいなのはあまり入っていない状況である。なので、筋道があって達成するんだというようなところは若干弱い面があると思うので、そういう面も含めて今後取り組んでいく必要がある。

毎年、実施計画をつくっていて、基本的にはハードものが多いが、中期的に金額ベースで出てくる計画は 3 年ローリングで毎年見直しをしているので、そういうものの中にも KPI の数値を向上させるものを入れていく取組が必要だと思っている。

(委員)

今日検証する意味は、検証して、うまくいってないものを次は具体的にどう進めていくかを、それでいいのかということまで本当は検討しなければいけないのかなと思うと、ここに書かれている今後の取組がこれでいいのかという判断がなかなかしづらい。ここに書かれていること以外に、より具体的に腹案を持っていて、それを現実的に回していくのだということがあるのであればそれはそれでいいのでは。

(政策情報課長)

当然、既存事業で、これに関係する事業で他にもやっているものはたくさんある。ご指摘のことは、頭に入れながら今後進めていきたい。

(総務部長)

補足すると、委員さんにいただいた意見をどうやって施策に反映していくか考えなければいけないが、政策情報課長が話したように、実施計画の中に、具体的にどんな事業をやるかという姿を出していかなければいけないと考えている。例えば基本目標3の遊休荒廃農地面積の削減は、地域おこし協力隊を新しく募集をしていくときに、定住をしていただいたり、農業に携わっていただくような人を条件として募集をしていく。そういう方に遊休荒廃農地を少しでも解消する足掛かりをつくっていただくというようなことを、地域おこし協力隊という事業をつかってやっていくと実施計画の中に具体的に明記していこうと考えているので、今日ご指摘いただければまた具体的に展開していく種にしていきたい。

(会長)

ご指摘のように、基本目標3の内容は確かに、市民にとっても非常に期待値が大きい、事業の柱になる、それだけに逆に非常に難しい課題にはなっている。しかし、日々の取組が結果を生むので、その日々の取組がどの程度積上げをされているのかということが非常に大事な、結果に反映できるものになる。

皆さんの方から、具体的な取組があると、結果に向って押上げになるだろうというアイデアも出していただければ。

住みよさランキング43位というのも、何らかのかたちで評価をいただいたという意味で言うと、その評価の基準を知っておく必要がある。ある意味市民が自信を持って、中野市というものについて自己評価をしながら、更にいいところを伸ばしていく、もっと言うと市民が自分たちの地域を対外的にPRしているのかどうか。こういう機会が自信をつけるきっかけにもなる。

(政策情報課長)

住みよさランキング2017のトップ50までがネットで公開されているが、公表されている範囲では、ランキングを出すにあたって5つの観点があって、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度、この5つの項目でランキングを出していて、長野県内1位で、2位が駒ヶ根市で45位。駒ヶ根市が昨年47位、中野市は72位から43位に上がっているという状況である。2015年の統計数値が今回のランキングに反映されたということで、住宅の統計調査とか国勢調査の2015年の数字が入ってきているということで、ランキングが少し変動されているというふうに見て取れるが、詳細については今後更に分析したい。

○農業分野の取組について

(委員)

農業分野では、PRもいろいろやっていただいているし、事業者の方々も農産物を販売してるので、努力していないところはない。頑張ってもらっているのでこれからも継続していただきたい。

給食関係で、中野市はきのこだが、きのこは農協で、えのき氷で数値が変わったという結果が出た大人が多かったが、小学生中学生でほぼ100%地元産食材を使って、東京の子どもたちとどれだけ数値が違うかを調べることによって、中野市は食の部分で健康が維持できているのなら中野市に移住しようかというPRになるのでは。あと、給食をつくっている方々にきのこを使った料理で、子どもが喜ぶものをつくっていただいて、新たな食品ができるようがんばっていただきたい。

(政策情報課長)

給食での地元産食材の使用率は、野菜類が冷夏の影響と品不足により達成に至らなかったとあるが、季節によって変動があるということで、中野市の食材だけで給食の献立をつくるのは難しい部分がある。なので100%にするのは無理だということだが、ご提案のようにきのこであれば100%の供給が可能だと思うのでご意見を参考にさせていただければと思う。

昨年度、給食の食器を更新する時に、JAさんにご協力をいただき、えのたんの絵を入れたものを子どもたちに使ってもらっている。そんな取組もしている。

(会長)

一昨年、小学校高学年の親御さんにご協力をいただいて、市内11の小学校の4年、5年、6年生できのこの消費量調査を行った。1年に3回行ったが、えのき茸の消費量が全国平均の1.7倍というデータが出た。やはり生産量の多い地域なので消費量も多いというのが如実に表れた。ただ、生産している家庭が食べているのではなく、生産者でない家庭の方が消費量が多いという傾向が表れた。つまり中野市民は、作っていない人が一生懸命食べている、という傾向が表れた。

食べて健康になれるか否かということについては、特にきのこは食物繊維が多いので、腸内環境を非常によくするということが言われているので、今年農協で新たな取組をしようということから、理化学研究所の辨野義己(べんのよしみ)という博士が、世界的にも腸内細菌の研究の権威であって、その方と共同研究をしながら、きのこを一定期間食べて腸内環境、腸内細菌がどのように改善できるかという研究の準備を始めている。その結果もまたいろいろに使えるのかなというふうに思ってる。それがこの地域のブランド力を上げるひとつの要因になればと期待をしている。

○「住みよいと感じる市民の割合」について

(委員)

基本目標2の、「住みよいとを感じる市民の割合」について、達成できない原因として、居住地区による数値のばらつきが見られる、とあるがこれは街なかの方が満足度が高いという傾向があるのか。

(政策情報課長)

手元に詳細な数字はないが、比較的高いのは平野地区である。北部、豊田方面が低い傾向にある。単純に言うと、買い物等の利便性が高いところが高いのかなというふうに分析をしている。

○空き家バンクの登録物件について

(委員)

「空き家バンクの登録物件への移住世帯数」について、私自身が中野市の北部に住んでいて、空き家バンクで家を見つけたのだが、その時登録物件が少ないと不動産屋がおっしゃっていて、野沢や飯山から、もっと雪の多い所から移住したいという方もいるそうだが、空き家バンクの登録が非常に少ない。だが実際に北部の方に住んでみると空き家はある。でもなかなか、相談会とかやっても相談には訪れない方もいらっしゃるのでは。空き家が多いと思われる地域はなんとなくわかると思うので、そういった地域を重点的に、例えばイベントがある日に相談会を行うとか、回覧板で回す等、情報が目につきやすいかたちをとっていけばどうか。お年寄りとか空き家があるけどどうしようという方にも、どういったことが障害になるのか考えながら対応していくことも必要ではないか。

(政策情報課長)

登録物件の掘り起こしが必要だ。登録物件が3件で、新たに登録するにはどうしたらよいかということで、空き家の相談会を行っている。その中で、空き家になって困っているところがあるが、家財の処分や仏壇をどうするとか、いろいろなネックがある。おっしゃったように、北部の方にも空き家はたくさんあるのに流通にのっていないものがたくさんあるというのは承知している。やり方はいろいろあるが、相談会という「待ち」のやり方に加えて、こちらからいかかでしょうかといいかたちで、掘り起こしをしていく必要があるのではないかといいことも考えているが、なかなか、相手のある話なので、やってみなければわからないところもある。補助制度だが、家財の処分にも使えるように制度化をしているが、なかなか思い出の品が捨てられないとかいうところでは難しい面もある。

(委員)

私が家を買ったときには、持ち主の方が全部きれいにして用意してくれたが、農機具とか必要なものは使いたかったという気持ちもあった。お年寄りの方とかは、きれいにして渡すのが当然だという気持ちが強いが、外から来た者にすると、一から買わなければいけないものがたくさんあって、雪下ろしをするために大きな脚立が必要で、そういったものとか、住んでいるうちにいろんなものが必要になってくる。場合によっては、家財道具とかある状態でも相談するというのもっとしていいと思う。仏壇とかは難しいが、処分しなくてもいいものはあると思う。

(会長)

ニーズに応じてというのも必要かもしれない。掘り起こしの方法もいろいろあると思うので、そのままにしておいてくれというニーズもあるだろうし、そういったことをケースバイケースで、実態が把握できるようなことを考えていただければ。不動産関係者との連携も必要。掘り起こしの方法を検討いただきたい。

・会長まとめ

(会長)

28年度の事業について皆さんから非常に貴重なご意見をいただいた。この内容について、事務局の方でもしっかり整理をしていただいて29年度の事業遂行に向けて活かしていただきたい。なお、私どもは、この会議の場でのみではなく、一年間でいつも事業がどう進んでいるのかということについて監視をする立場にあるので、会議の場でなくとも日常市民の皆さんとの間で、こういった取組のことが話題になったときには、その声を政策情報課の方に反映をしていただきたい。

4 その他

(政策情報課長)

委員の任期が7月12日までで2年間の任期が終了となるが、今お願いしている委員の皆様に引き続き委員としてお願いしたい。

・部長あいさつ

(総務部長)

今日いただいたご意見を、このまま聞きっぱなしではなく、検証をしっぱなしではなく、次へ一歩でも二歩でも何かできる施策を考えていくということで、予算、実施計画いろいろなものを使いながら前へ進めていきたいと思うので、是非皆さんから、いろんな立場でいろんな切り口があるかと思う、またいろんなお付き合いがあるかと思うので、是非新しい感覚で、私ども、庁内にいるだけではなかなか聞けない話もあると思うので、いろいろなことをご助言いただければということをお願いしたい。

5 閉会

以上